

「日中友好交流プログラム 2019」を通して

土佐さきがけプログラム国際人材育成コース 1年

棚田陽香

1 参加目的

主な参加目的は、中国人との更なる人的交流のためである。最近、本学の中国人交換留学生と知り合い、今まで全く無知だった中国文化や中国語について学ぶ機会が増えた。現在私が所属するコースでは交換留学が卒業要件の一つとなっている。友人ができたことで、中国の協定校に留学することも選択肢の一つとして考えるようになった。本プログラムで交換留学の大学選びの参考にしたり、中国や中国人に対する理解を深めたりしたいと考えていた。

2 事前準備

今回のプログラムでは安徽大学の日本語学部生との交流会、同窓会、受入行事の計 3 つのプレゼンテーションの機会があった。それぞれ高知の文化紹介、TSP の紹介、高知大学の授業についてのプレゼンを行った。高知の文化紹介については高知大学生がよさこいについて、高知工科大学と高知県立大学の学生が各大学や高知の概要、料理について紹介することになった。以前、オマーンから来た学生によさこいについて紹介したことがあり、その時の経験も生かしてプレゼン資料を制作した。また、よさこいの正調を現地の人と一緒に踊る計画があったので動画を参考にしてレクチャーをできるように練習した。よさこいの正調を覚えることでさらに高知県にさらになじめたように感じた。TSP の紹介、高知大学の授業についての準備では自分の勉強や目標について改めて再認識するいい機会となった。

3 安徽省・合肥市での活動

安徽省・合肥市では主に安徽博物館、安徽大学、AI 企業、日系企業の訪問を行った。まず初めに安徽博物館の訪問では安徽の歴史について触れることが出来た。博物館に入ってすぐに銅でできた安徽省の風景を模した絵画があった。黄山をはじめとする、安徽省が誇る自然の素晴らしさがひしひしと伝わってきた。また高校で世界史を勉強していた際、蟻鼻銭をはじめとする中国のお金や数々の書物などを生で見ることができ、歴史の偉大さを感じ

ることが出来た。そのほかにも解説には触れなかったもののかんざしや釣りの道具、鏡など惹かれるものがたくさんあり、安徽の文化だけでなくほかの中国の地域についても触れたいと思った。その後安徽大学で日本語学部の生徒と交流を行った。高知大学の副学長である遠藤先生のお話では Book road というテーマで午前中に訪問した安徽博物館でみた漢書の数々を思い出した。また高校時に学んだ漢文の意味について改めて考えさせられた。中国人の考え方、日本人の考え方でそれぞれ似た思考があるのはこの漢書、いわゆる Book road が繋ぎ止めてきているのだろうと感じた。中国人学生の発表では中国、主に安徽省の文化について触れることが出来た。私が特に印象に残っているのは安徽省のお茶だ。私は普段 1, 2 種類のお茶しか飲まずあまり関心がなかったが、様々なお茶が紹介され、どのお茶も色が透き通っていて後日飲む機会があり飲んでみるととても飲みやすくそれらのお茶が世界的にも知れ渡ってほしいと思った。その後の日本人学生の発表ではそれぞれが納得する出来でプレゼンが出来た。一緒によさこいを踊った際には良い時間を一緒に過ごすことができ中国人学生からも高評価を頂くことができ、意味のあるプレゼンになったと思う。翌日に行った企業の訪問ではアイフライティックと HITACHI の工場を見学した。前者のアイフライティックでは最先端の AI 技術に触れることが出来た。音声認識に非常に優れていると同時に通訳を行ったり、音声だけでテレビ画面を操作したりと自分が思っていたよりも進化していた。これからの日常生活がどのように変化していくのか、また英語や中国語を学んでいる私にとって言語がこれからどのような立場になるのか考えさせられた。実際に他大学の日本人学生が中国人学生と会話をする際にアイフライティックの翻訳機能を使ったと言っていた。後者の HITACHI の見学では実際にショベルカーを作っているところを見た。日本の企業が海外に進出してその地域に貢献をしているのを見て日本のことを誇りに思った。

4 上海での活動

上海では高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）総会に参加をした。ただ参加するだけでなく運営にも携わり、受付や会場の整備も行った。受付を行う際、中国人の名前を聞き取ること苦労した。日本にいとやはり日本人の名前を聞く機会の方がどうしても多いので、あまり聞きなれていない中国人の名前を聞いて名簿にチェックを入れていくのはとても難しかった。また、中国ではキャッシュレスが進んでいて現金を持ち歩かない人が多くいる。今回、参加費が 200 元であったが銀行から降ろしてきたり、知り合いから借りたりな

ど現金で 200 元を払うのに苦労していた。日本では現金で払うことの方が多く現金とカードの利点と欠点について改めて考えるいい機会となった。

5 受入行事

日本に帰国した後、今度は安徽省から約 50 人の学生が高知にきた。今回の受入行事では安徽省に行った高知大学生だけでなく、国際茶屋というサークルに属している学生や TSP の先輩方も参加していてとても賑やかな会となった。5, 6 人のグループに分かれて学内を案内したりお昼ご飯を一緒に食べたりなど中国人学生と日本人学生の交流を行った。お昼を食べている際にお弁当の中に入っていた日本食について質問され、自分でもわからない日本食がありうまく説明できなかつた場面があった。これから海外に留学したいと考えているので自国の文化について詳しく説明できるように概要や歴史だけでなく食文化や私が住んでいた地域の文化についても深く学びたいと思った。学内案内では自分が普段授業を受けている教室や学食などを案内した。その際に紅葉がきれいに見える場所も案内した。他のグループの人たちとも一緒に写真をとることが出来てさらに仲を深めることが出来た。最後には中国人学生のうちの 1 人が太極拳を踊って見せてくれた。予定になかったことだったのでとても驚いたが太極拳を見るのは初めてだったのでとても新鮮な気持ちだった。

6 まとめ

今回の安徽省訪問に関する行事すべてを含めて印象に残っていることは主に 2 つある。まず 1 つ目は中国人の人柄についてだ。会食などに参加した際、みんな積極的に話していて社交能力が高いと感じた。日本人はどちらかというとシャイな人が多いと言われていて実際にそのような人が多いと私も感じている。中国人の方々と話して自分自身も積極的に活動していきたいと思う。2 つ目は中国の発展についてである。私の中で中国、特に安徽省においてそこまで発展しているイメージはなかった。しかし企業訪問で AI の発展について触れたり、移動しているときに窓から見えた景色などを見ると自分が考えていたよりも発展していてこれから中国が世界の中で地位が高くなっていくのが想像できた。